



ヘルシンキ — ライフサイエンスにとっての理想的な場所

高度なテクノロジーの拠点、革新的な医療の試みの場として、フィンランドのヘルシンキ地域は、技術革新に注目する日本企業の主要なパートナーです。

日本、大阪で2018年1月 - フィンランドと日本は、100年近くの外交関係を経て、長い間友好関係を築いてきました。その間に共有される価値に加えて、両国では同様の課題、他の国々も含めて抱えている高齢者ケアやヘルスケアを分かち合ってきました。フィンランドの高齢化は世界でも日本に次ぐ第二番手の速さで進行しています。その他の共通の課題として、サイバーセキュリティや高額な医療費の削減また予防医療への模索が挙げられます。フィンランドは、シルバー世代のための官民協力、デジタル・ソリューション、ゲノミクス、技術革新における専門知識をもちこれらの問題を解決する最前線に立っています。フィンランドの世界クラスのノウハウは、日本のライフサイエンス企業にも幅広い戦略的可能性を提供します。

機能的な官民協力

フィンランドの首都であるヘルシンキは臨床試験や概念実証のために世界でも最も良い試みの場として運営されています。500を超える健康&ライフサイエンス企業、85億ユーロの収益、2つの世界クラスの大学を擁しています。世界をリードする健康における技術革新には、公における意思決定者、サービス利用者、技術開発者、アプリケーション制作者、金融部門がすべて同じ目的のために働く、広範で新しいタイプの協力が必要です。ヘルシンキ市はオープンな開発プラットフォームとして機能し、企業に拡張性のある製品やサービスを試みる機会を提供します。このようなコラボレーションの例には、仮想ケアと遠隔監視、センサー技術、通信ソリューション、自動薬用量、ロボット技術、包括的な癌治療などがあります。ヘルシンキ地域を起源としたその他のヘルスケアに焦点を当てた取り組みには、EUレベルでのサイバーセキュリティの開発とAIの使用が含まれます。

シルバー世代の技術革新はヘルシンキの生活へ

これらの技術革新の多くは、ニーズに合わせて作られたシルバー世代への最善のケアを提供するのに役立ちます。世界的にみてもシルバー世代は、劇的に最も早く増加しているグループになります。

もうすぐフィンランドは、60歳以上の人口が140万人に達し、その購買力は200億ユーロと推定されます。

世界の60歳以上の人口は、まもなく10億を超えます。

フィンランドでは、保健システム全体が更新されており、同時にデジタルサービスの開発に大きな相乗効果もたらされています。これらの革新的なソリューションを通じて、フィンランドは公的医療のコストを大幅に削減しようとしています。

フィンランドのゲノミクスにおける可能性への世界的に高い関心

フィンランドの主要な世界的な強みは、一般の人々(99%)が医療調査に参加する意欲が高いことであり、患者の98%以上がサンプルをバイオバンクに保管することを許可しています。ヘルシンキの世界的に有力な医療機関であるHUSにとって、これは、毎年、最大で50万の新しいサンプルが蓄積されることを意味します。フィンランドでは、長い間、ヘルスケアに統合されたゲノム研究があり、医療従事者はゲノム情報を利用する知識とスキルを持っています。1950年代以降、信頼性が高く包括な登録システムと人口データベースが使用されてきました。このような患者、人口統計、ライフスタイル、またオープンデータなどのデータはすべて、研究における安全な使用のために単一のデータベースに統合されています。これによりフィンランドは、コラボレーションと投資のための魅力的な研究と技術革新の環境となります。:フィンランドは、高精度医療の理想的な開発の場所であり、小規模な人口を対象としたEU市場向けの優れたテストケースの場所です。

医療研究開発における主要な場所

効率的なヘルスケアにおける長年の伝統と、医療データのデジタル化、ノキアのエコシステム工学の組み合わせにより、フィンランドは医療研究開発の最高の場所になりました。

フィンランドは研究開発における国内総支出が最も高く、他のEU(欧州連合)諸国と比較してアジア企業に多くの利点をもたらします。EUで医療産業ビジネスを開始するには最高の市場環境を持っています。

私たちはEUのなかで最高の知識と技術革新を持つ国であり、ヘルシンキは、ヨーロッパ-アジア間で最速のルートとなります。更に、フィンランドはヨーロッパで最も低い税率、僅か20%であり、ユーロを持つ唯一の北欧諸国です。また、高い専門知識を持つ人材を有すると共に、そのコスト面においても非常に競争力があります。

優れた人材確保と国際的なアクセスのしやすさ

ヘルシンキの主な利点には、戦略的な立地と高い専門知識を有する労働力があります。高度なプログラミングスキルを持つ80,000人以上の技術者、ライフサイエンス分野では29,000人、IT領域では116,000人を擁しているヘルシンキは、ニッチなスキルを持つ高度に熟練した人材を誇ります。ロシアとヨーロッパの国境に位置するヘルシンキは、国際的なアクセスに大変優れています。アジア-ヨーロッパ間における最短ルートになります。きれいで安定し、安全なフィンランドのビジネス環境と活気のあるビジネスコミュニティは、ビジネスに最適な場所です。

フィンランドと日本の長期的な関係

日本とフィンランドは、近年、安倍晋三内閣総理大臣とサウリ・ニニスト・フィンランド共和国大統領の主導により二国間における戦略的パートナーシップを築いています。これは、例えば経済・科学また技術分野の緊密な連携を含みます。日本は、フィンランドにとってEU域外における主要な経済パートナーの一国であり、主要な投資国です。最大の投資の一つには、フィンランドのヘルスケア開発分野へ積極的に参加している富士通株式会社があります。日本の情報処理技術装置とサービスプロバイダーは、フィンランドに次世代クラウドプラットフォームである富士通クラウドサービスK5のノルディックデータセンター設立を決定したと発表しました。「フィンランドは、ビジネスを展開し、共に協力し合うにはいい国です。まさに「e-社会」なのです。信頼できる社会基盤があり、安心できる人々が暮らしています。環境は新しいビジネスの発展を促します。」と富士通株式会社、第二ヘルスケアソリューション事業本部、新ビジネス推進室の乗次 啓 マネージャーは語ります。

参考: アジアと欧州におけるゲートウェイとしての日本国とフィンランド共和国 との間の戦略的パートナーシップに関する共同声明(仮訳)
外務省 2016年3月10日, 東京より一部抜粋

II. 経済, 科学技術, 教育及び平等

6. 両首脳は、経済及び科学技術の分野で、相互に利益となる協力を進展させることの重要性を確認した。この文脈で、両首脳は、日本のJETROのような政府機関、非政府機関及び企業や起業家間の協力関係に基づき、相互の貿易及び投資を促進することが重要であるとの見解、また、頻りに運ばれている直行便によって繋がれている日本とフィンランドが、互いにアジアと欧州のゲートウェイとして機能していることを踏まえ、両国が双方の企業が地域的及びグローバルに活躍する拠点になり得るとの見解を共有した。

大阪でのビジネスチャンスのご紹介

この度、フィンランドの首都圏地域開発機構であるヘルシンキ ビジネス ハブ は、フィンランド大使館と協力して日本の医療関係企業を中心に招聘し、ヘルシンキ首都圏地域での事業展開・成長の機会を模索するイベントを開催します。また、同イベントは、大阪商工会議所、KUUMERIの共催、関西医薬品協会の協力のご支援を受けての、初めての開催となります。

演題には、デジタルヘルス、個人向けのヘルスケア、シルバー世代の新しい技術革新などがあります。講演者は次の通りです。:

- 駐日フィンランド大使館、東京 駐日フィンランド大使館 ユッカ・シウコサーリ 大使
- ヘルシンキビジネスハブCEO 博士 マルヤ・リイーサ・ニーンコスキ 氏
- フィンランド共和国前首相、会長、エグゼクティブ・イン・レジデンス アアルト大学 前首相 エスコ・アホ 氏
- アカデミックメディカルセンター バイオバンクヘルシンキ

- ディレクター キンモ・ピッケネン 氏
- VTT フィンランド・テクニカルリサーチセンター
主要顧客マネージャー カリ・コータマキ 氏
 - 富士通株式会社 第二ヘルスケアソリューション事業本部 新ビジネス推進室
マネージャー 乗次 啓 氏
 - 社会福祉法人 隆生福祉会 理事長 藤本 加代子 氏
 - 科学的・臨床的開発、パロセラピューティクス Valo Therapeutics
副社長 サリ・ペソネン 氏
 - ヘルシンキ ビジネス ハブ シニアマネージャー マルセツロ ヴァン ロッサム氏

ヘルシンキ ビジネス ハブ

ヘルシンキビジネスハブはフィンランドの首都圏地域における地域開発機構です。海外企業がヘルシンキ地域で事業創設をするための支援を行っています。

市場への参入や事業展開への適したソリューションを提供しています。ヘルシンキビジネスハブは、海外企業がフィンランドのビジネスエコシステムを理解し、適切なビジネスパートナーと連携するための情報を提供し、マッチメイキングの支援を無償にて実施しています。また、海外企業が研究開発、製造の拠点またヨーロッパ地域での本部設置など、事業展開のために適切な成長の機会を見極めるたにも役立ち、更に、公的資金事業体と連携へ役立ちます。ヘルシンキビジネスハブは、特に、個人向けのヘルス(バイオバンクを含む)と医療のテクノロジーに重点をおきながら、日本のライフサイエンス企業がヘルシンキ地域のエコシステムを活用するためのサポートの準備が整っています。

詳しい情報はヘルシンキ ビジネス ハブのウェブサイトをご覧ください。

<http://www.helsinkibusinesshub.fi/>

Media Contactメディア連絡先:

安田陽子 YOKO YASUDA

yoko@kuumeri.com

090 6660 4314